

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	30° 24' 21.00"	橋梁ID
				経度	130° 54' 05.00"	
学園橋 (フリガナ)ガクエンバシ	上中下中線(一級)	熊毛郡南種子町大字中ノ下字				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
南種子町	2022.12.2	河川	有	一般道	1次	水道管

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)		点検者	(株)建設技術コンサルタンツ	定期点検者	用皆 大輔	
定期点検時に記録				応急措置後に記録		
部材名	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	I				
	横桁	I				
	床版	I				
下部構造	I					
支承部	II	その他(さび汁)	写真1、Sf0501-1			
その他	II	変色・劣化	写真2、Ej0301			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分I~IV)	
定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
II	落橋防止システムに、伸縮装置の止水性低下が要因のさび汁を伴う漏水が確認された。予防保全の観点から内部鋼部材の腐食に対する措置が必要と判断し、健全性はIIと判定した。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2002	70	12.8
橋梁形式		
ポストT桁橋、逆T式橋台、控え壁式橋台、壁式橋脚(角型)(RC)		

道路上で起点側より撮影



A1橋台部より撮影



※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真に記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

支承部【判定区分： Ⅱ 】	その他【判定区分： Ⅱ 】
<p>写真01</p>  <p>SF0501-1</p>	<p>写真02</p>  <p>EJ0801</p>
支承部【判定区分： 】	下部構造【判定区分： 】
Empty space for additional photos	Empty space for additional photos

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	30° 25' 59.00"	橋梁ID
				経度	130° 57' 13.00"	
山田橋 (フリガナ)ヤマダバシ	西之町広田線	熊毛郡南種子町大字平山字				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
南種子町	2022.12.6	河川	有	一般道	1次	水道管

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)		点検者	(株)建設技術コンサルタンツ	定期点検者	用皆 大輔	
定期点検時に記録				応急措置後に記録		
部材名	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	I				
	横桁	II	ひびわれ	写真1、Cr03		
	床版	I				
下部構造	I					
支承部	II	変色・劣化	写真2、Bh0601			
その他	II	土砂詰り	写真3、Ej0102			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分I~IV)	
定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
II	横桁にひびわれ幅の大きいひびわれ(0.5/500mm).床版横絡め定着部に1箇所腐食が見られる。また、支承本体(ゴム支承)には、今回被覆ゴムの内部鋼板の腐食が見られた。予防保全の観点から措置を講ずることが望ましいと判断し、健全性はIIと判定した。なお、伸縮装置の土砂詰まりは定期的な清掃により対応が可能である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)		
架設年次	橋長	幅員
1982	18.6	7.7
橋梁形式		
プレテンT桁橋、逆T式橋台2基		

<p>起点</p> 	<p>道路上で起点側より撮影</p> 	<p>終点</p> 
---	---	---

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造(横桁)【判定区分: Ⅱ】	支承部【判定区分: Ⅱ】
<p>写真01</p>  <p>Cr03</p>	<p>写真02</p>  <p>Bh0601</p>
その他【判定区分: Ⅱ】	下部構造【判定区分: 】
<p>写真03</p>  <p>EJ01 02</p>	

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	30° 25' 12.00"	橋梁ID
				経度	130° 57' 57.00"	
阿武鋤橋 (フリガナ)アブスキバシ	西之町広田線	熊毛郡南種子町大字平山字				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
南種子町	2022.12.7	河川	有	一般道	1次	ケーブル

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)		点検者	(株)建設技術コンサルタンツ	定期点検者	用皆 大輔	
定期点検時に記録				応急措置後に記録		
部材名	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	主桁	II	補修・補強材の損傷	写真1、Mg04		
	横桁	I				
	床版	I				
下部構造	I					
支承部	I					
その他	I					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分I~IV)	
定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
II	前回点検(2017年)以降に補修が行われている橋梁である。主桁G4(海側)において、主桁断面修復箇所と比較的損傷面積が大きい(900×450mm)が確認された。塩害環境下であることを踏まえ、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましいと判断し、健全性はIIと判定した。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)		
架設年次	橋長	幅員
1984	26.1	8.2
橋梁形式		
ポステンT桁橋, 重力式橋台2基		

<p>起点</p> 	<p>道路上で起点側より撮影</p> 	<p>終点</p> 
---	---	---

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真に記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

<p>上部構造(主桁)【判定区分: Ⅱ】</p>	<p>上部構造( )【判定区分: 】</p>
<p>写真C1</p>  <p>Mg04</p>	
<p>支承部【判定区分: 】</p>	<p>下部構造【判定区分: 】</p>

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	30° 25' 51.00"	橋梁ID
				経度	130° 51' 50.00"	
岩川大橋 (フリガナ)イワガワオオハシ	椿山牛野線	熊毛郡南種子町大字島間字				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
南種子町	2022.11.30	河川	有	一般道	不明	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)		点検者	(株)建設技術コンサルタンツ	定期点検者	用皆 大輔	
定期点検時に記録				応急措置後に記録		
部材名	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	主桁	I				
	横桁	I				
	床版	I				
下部構造	I					
支承部	I					
その他	II	防食機能の劣化	写真1、Gf01-1			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I~IV)	
定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
I	防護柵に前回点検からの腐食の進行が見られるが、主要部材に特に目立った変状は見られないことから健全性はIと判定した。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)		
架設年次	橋長	幅員
1996	60	7.7
橋梁形式		
ポス텐ト桁橋, T型橋脚柱角型(RC), 逆T式橋台2基		

終点



道路上で起点側より撮影



A1橋台部より撮影



起点

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真に記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

<p>その他【判定区分: Ⅱ】</p>	<p>上部構造( )【判定区分: 】</p>
<p>写真C1</p>  <p>Gf01-1</p>	
<p>支承部【判定区分: 】</p>	<p>下部構造【判定区分: 】</p>

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	30° 23' 03.00"	橋梁ID
				経度	130° 55' 06.00"	
夏田橋 (フリガナ)ナツダバシ	夏田郡原線	熊毛郡南種子町大字中ノ下字				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
南種子町	2022.12.8	河川	有	一般道	1次	水道管

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)		点検者	(株)建設技術コンサルタント	定期点検者	用皆 大輔	
定期点検時に記録				応急措置後に記録		
部材名	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	I				
	横桁	I				
	床版	I				
下部構造	I					
支承部	II	土砂詰り	写真1、Bh0202-3			
その他	II	土砂詰り	写真2、Ej0101-1			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分I~IV)	
定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
I	前回点検(2017年)前後に補修が行われている橋梁であり、橋梁全体として特に顕著な変状は見られない。橋台の沓座と伸縮装置に土砂詰まりが見られるものの、定期的な清掃により対応が可能である。よって、健全性はIと判定した。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1972	46.2	4.7
橋梁形式		
H形鋼橋, 逆T式橋台2基, 壁式橋脚(小判型)(RC)2基		

起点



道路上で起点側より撮影



終点



※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真に記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

<p>支承部【判定区分: Ⅱ】</p>	<p>その他【判定区分: Ⅱ】</p>
<p>写真01</p>  <p>Bh0202-3</p>	<p>写真02</p>  <p>EP1 01-1</p>
<p>支承部【判定区分: 】</p>	<p>下部構造【判定区分: 】</p>

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	30° 23' 28.00"	橋梁ID
				経度	130° 56' 20.00"	
中部橋 (フリガナ)ナカベハシ	中部高山線	熊毛郡南種子町大字荃永字				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
南種子町	2022.12.5	河川	有	一般道	不明	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)		点検者	(株)建設技術コンサルタンツ	定期点検者	用皆 大輔	
定期点検時に記録				応急措置後に記録		
部材名	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	主桁	I				
	横桁	I				
	床版	I				
下部構造	I					
支承部	II	土砂詰り	写真1、Bh0401			
その他	II	土砂詰り	写真2、Ej0102			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分I~IV)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
I	前回点検(2017年)以降に補修が行われている橋梁であり、橋梁全体として特に顕著な変状は見られない。沓座及び伸縮装置に土砂詰まりが見られるものの、定期的な清掃により対応が可能である。よって、健全性はIと判定した。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1993	28.2	6.5
橋梁形式		
ポスメント桁橋、逆T式橋台2基		



道路上で起点側より撮影



A1橋台部より撮影



※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真に記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

支承部【判定区分： Ⅱ 】	その他【判定区分： Ⅱ 】
<p>写真01</p>  <p style="text-align: right;">Bh0401</p>	<p>写真02</p>  <p style="text-align: right;">EJ01 02</p>
支承部【判定区分： 】	下部構造【判定区分： 】
Empty space for additional photos	Empty space for additional photos

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	30° 24' 00.00"	橋梁ID
				経度	130° 56' 17.00"	
雨田橋 (フリガナ)アマダバシ	片板雨田線	熊毛郡南種子町大字荃永字				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
南種子町	2022.12.9	河川	有	一般道	不明	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)		点検者	(株)建設技術コンサルタンツ	定期点検者	用皆 大輔	
定期点検時に記録				応急措置後に記録		
部材名	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	主桁	II	その他(鳥の巣)	写真1、Mg01		
	横桁	I				
	床版	I				
下部構造	I					
支承部	I					
その他	II	土砂詰り	写真2、Ej0101			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I~IV)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
I	前回点検(2017年)以降に補修が行われている橋梁であり、橋梁全体として特に顕著な変状は見られない。主桁に鳥の巣、伸縮装置に土砂詰まりが見られるものの、清掃により対応が可能である。よって、健全性はIと判定した。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1978	19.1	5
橋梁形式		
プレテンT桁橋、半重力式橋台2基		

<p>起点</p> 	<p>道路上で起点側より撮影</p> 	<p>A1橋台部より撮影</p> 
<p>終点</p>		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真に記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

<p>上部構造(主桁)【判定区分: Ⅱ】</p>	<p>その他【判定区分: Ⅱ】</p>
<p>写真01</p>  <p>Mg01</p>	<p>写真02</p>  <p>EP01 01</p>
<p>支承部【判定区分: 】</p>	<p>下部構造【判定区分: 】</p>

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	30° 26' 49.00"	橋梁ID
				経度	130° 57' 10.00"	
大浦橋 (フリガナ)オオウラハシ	長谷大浦線	熊毛郡南種子町大字平山字				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
南種子町	2022.12.5	河川	有	一般道	不明	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)		点検者	(株)建設技術コンサルタンツ	定期点検者	用皆 大輔	
定期点検時に記録				応急措置後に記録		
部材名	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	主桁	I				
	横桁	I				
	床版	I				
下部構造	I					
支承部	I					
その他	I					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分I~IV)	
定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
I	前回点検(2017年)以降に補修が行われている橋梁であり、床版横締め定着箇所に着目して見られるものの局所的で、その他の主要部材等は変状が見られない。よって、健全性はIと判定した。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1982	26.5	6.7
橋梁形式		
ポス텐T桁橋、逆T式橋台2基		

起点



終点

道路上で起点側より撮影



A1橋台部より撮影



※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。